

# 飛鳥の宮と寺院 約14km



伝飛鳥板蓋宮跡(石組み井戸)

## みどころ

飛鳥に都が置かれた7世紀、飛鳥とその周辺地域に営まれた宮や寺院を探訪するコースです。

### 1 川原寺跡

川原寺跡は、天智朝に創建された寺です。南面する中金堂を中心に、東に塔、西に東面する西金堂をもつ一塔二金堂の伽藍配置をもちます。文武朝には大官大寺、薬師寺、飛鳥寺と並び、国の四大寺に数えられた大寺ですが、由緒ははっきりしていません。一説には、天智天皇が母親の齊明天皇の菩提を弔うために建立した寺とも考えられています。

### 2 橘寺

橘寺は、聖徳太子誕生地の伝承をもちます。創立年代ははっきりしませんが、『日本書紀』にみられる橘寺の尼坊が失火したという記録から、天武朝に存在したことは確実です。境内から出土する瓦には飛鳥寺の創建瓦と似たものがあることから、7世紀初頭に遡る可能性があります。伽藍配置は中門、塔、金堂、講堂が一直線上に並び四天王寺式ですが、正面が東面する点は橘寺の特徴といえます。

### 3 伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥宮跡)

明日香郵便局の角を北進すると、伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥宮跡)に至ります。伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥宮跡)は、飛鳥盆地の中央に位置します。遺構は三時期の重なりがあり、それぞれ舒明の飛鳥岡本宮、皇極の飛鳥板蓋宮、斉明の後飛鳥岡本宮、天武・持統の飛鳥浄御原宮と推定されています。なかでも飛鳥浄御原宮の遺構は、宮殿の中核区画である内郭の正殿や脇殿、内郭を囲む外郭の掘立柱塀などが検出され、具体的な姿が明らかになりつつあります。

### 4 岡寺

岡寺は、別名を「龍蓋寺」とも称する、義淵僧正が建立した寺です。草壁皇子の没後にその宮を寺としたとの記録も残ります。遺跡は岡寺とその周辺に広がります。約200m離れた山中で礎石、西側の治田神社境内でも礎石や基壇の石積み、階段跡などが確認されています。岡寺から出土する葡萄唐草文軒平瓦(岡寺式)は、その分布が奈良盆地南部の山中や山麓に立地する寺に限られ、山林修行との関わりが考えられます。

### 5 酒船石遺跡

天理教岡大教会の北の角を西に入ると酒船石遺跡に至ります。酒船石遺跡は、伝飛鳥板蓋宮跡の東の丘陵斜面に位置します。古くから知られていた「酒船石」に加え、近年の調査で、亀形・小判形石造物を伴う導水施設や切石積みの石垣などの遺構が発見されています。齊明天皇の「両槻宮」や『日本書紀』の齊明記にある「宮東山の石積み」との関係が考えられています。

### 6 飛鳥寺

飛鳥寺は、日本最初の本格的な仏教寺院です。蘇我本宗家の氏寺で、用明2年(588)から造営が始まったことが『日本書紀』などの記録からわかります。伽藍配置は、塔を中心に東西北に金堂を配した一塔三金堂式をとります。同じような配置をもつ寺が高句麗にもあることから、その影響が考えられています。また、飛鳥寺の瓦は百濟の瓦によく似ており、百濟の瓦博士が渡来してきたという文献記録に符号します。

### 7 飛鳥水落遺跡

飛鳥水落遺跡は、飛鳥寺と飛鳥川に挟まれた場所にあります。調査では版築によって造成された大形の基壇跡が発見されています。基壇内の礎石は互いに梁石で連結されていました。また、基壇の中央には漆塗りの木箱が据えられ、基壇の外から木樋や銅管を伝って水が集まるような仕組みが確認されました。堅固な基壇の構造と水を使う施設のあり方から、斉明6年(660)に中大兄皇子が作った漏刻台とみられています。

### 8 石神遺跡

水落遺跡の横の道を生け垣に沿って北進するとすぐに石神遺跡です。石神遺跡は、飛鳥寺の北西に広がる遺跡です。明治時代には須弥山石や石人像が出土しています。遺跡には7世紀中頃から8世紀前半、斉明朝、天武朝、藤原京期、奈良時代の四時期に大別される遺構があります。斉明朝の遺構は長廊状の建物によって東西二区画に分けられ、建物の間には石敷広場、石組溝、井戸などが配置されており、饗宴用の施設と考えられています。

### 9 山田寺跡

山田寺跡は、大化の改新(乙巳の変)後の右大臣、蘇我倉山田石川麻呂の建立した寺です。『上宮聖徳法王帝説』裏書によると、643年に建立が始まったことがわかります。調査では、南門、中門、塔、金堂、講堂が南北一直線に並び伽藍配置をとることが確認されています。裏山の土石流によって倒壊した東回廊跡に残っていた建築部材は、古代建築史上、稀有な例として注目されます。

### 10 奥山麁寺(奥山久米寺)

奥山麁寺は、飛鳥の北方地域である小墾田に位置します。寺名を小治田寺とし、蘇我氏の同族である小墾田氏が建立したとする説があります。これまでの調査では金堂、塔の規模が明らかになり、講堂の位置が確認されています。出土瓦から7世紀前半に造営された寺であることがわかります。

### 11 豊浦寺跡

現在ある向原寺という寺の周辺が豊浦寺跡です。豊浦寺跡は、蘇我本宗家が建立した尼寺です。調査では金堂、塔、講堂、西回廊などの建物跡が確認されています。創建の年代は、飛鳥寺や法隆寺との瓦の同范関係によって7世紀初頭に遡ることがわかります。また、講堂や金堂跡の下層からは、掘立柱建物が発見され、推古天皇の豊浦宮跡(592~603年)と推定されています。

### 12 大官大寺跡

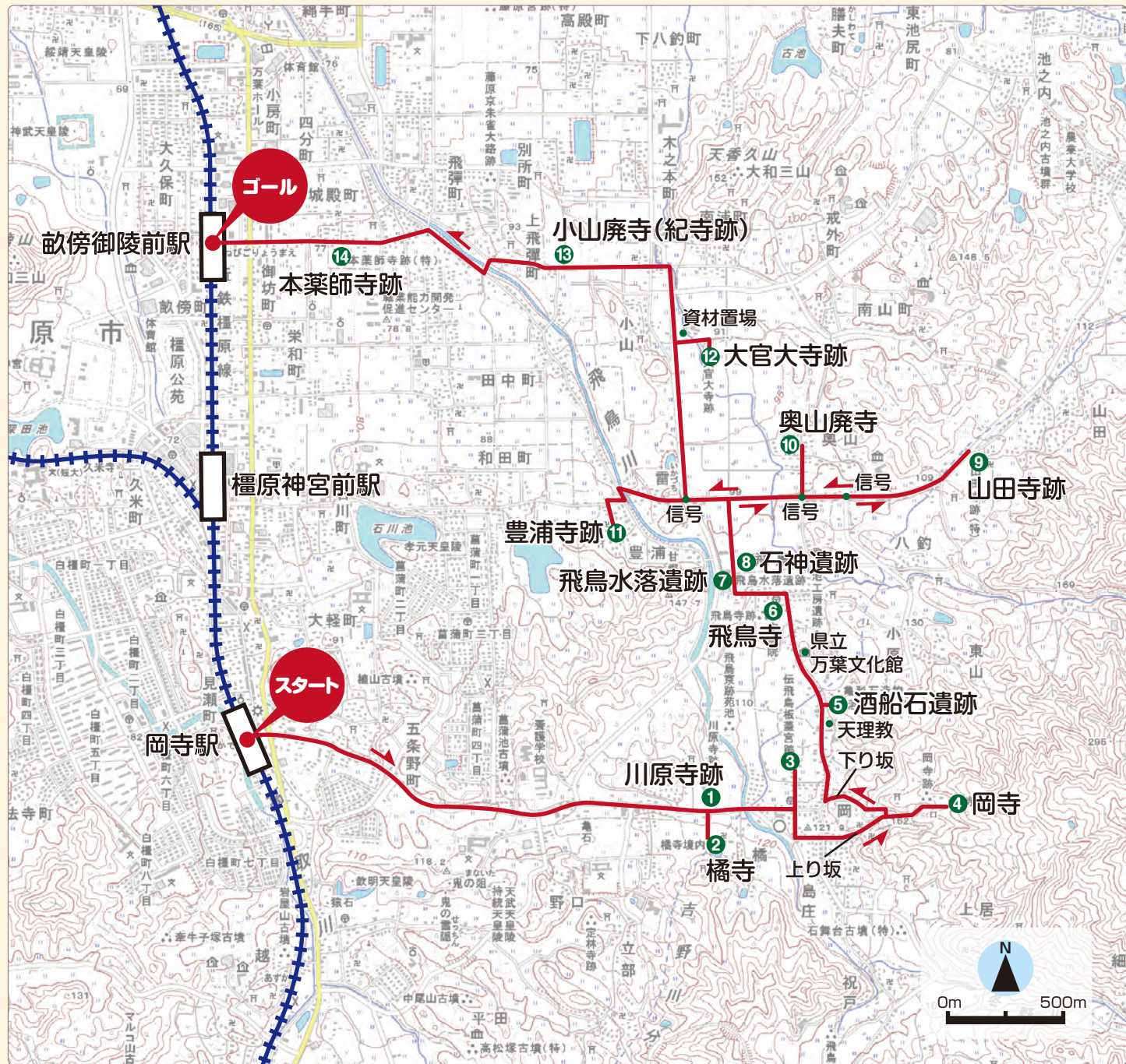
小山バス停より北へ80mの辻を東に入ると、大官大寺跡に至ります。大官大寺跡は、香具山の南、藤原京左京九・十条四坊に位置します。伽藍配置は南から中門、金堂、講堂が並び、金堂の東南には塔があります。調査では伽藍中心部のほとんどで火災の痕跡が確認され、『扶桑略記』和銅四年(711)の火災記事の記事が裏付けられました。また、金堂の基壇やその下層からは藤原京期の土器が出土し、伽藍の造営が文武朝に下ることが判明しています。

### 13 小山麁寺(紀寺跡)

明日香庭球場付近に広がるのが小山麁寺(紀寺跡)です。小山麁寺は、藤原京左京八条二坊に占地する寺です。南門、中門、金堂、講堂や幢竿支柱跡などが確認されています。伽藍は藤原京の計画に合わせて造営されており、創建は藤原京の造営が始まった天武朝を遡らないようです。当時の寺名については、小字名の「キデラ」から紀寺とする説や、天武朝の官寺である高市大寺とする考えもありますが、意見は一致していません。

### 14 本薬師寺跡

本薬師寺跡は、天武天皇が680年に発願し、その後、持統天皇によって698年に造営された官立寺院です。金堂の前面東西に塔を備えた伽藍配置は、薬師寺式と呼ばれています。平城京への遷都に伴って移されたのが現在、奈良市西の京にある薬師寺です。近年の発掘調査によって、両者の堂塔の規模や配置がほとんど同じであったことがわかっています。



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。(承認番号 平21業複、第425号)

## コース

スタート 近鉄岡寺駅

1 川原寺跡

2 橘寺

3 伝飛鳥板蓋宮跡(飛鳥宮跡)

4 岡寺

5 酒船石遺跡

6 飛鳥寺

7 飛鳥水落遺跡

8 石神遺跡

9 山田寺跡

10 奥山麁寺

11 豊浦寺跡

12 大官大寺跡

13 小山麁寺(紀寺跡)

14 本薬師寺跡

ゴール 近鉄畝傍御陵前駅

## 注

トイレの少ないコースです。駅・コンビニをご利用ください。寺社等の見学に際し拝観料などの料金が必要な場合があります。紹介したコースには私有地なども含まれます。マナーを守って見学しましょう。

平城遷都 1300年祭



©Heijyo-kyo 1300th Anniv.